



なのはな通信

25年度 六ツ美中部小学校
校長室だより No. 13
平成 25年 12月 3日

十一月二十二日（金） 研究発表会を終えて

秋晴れの好天に恵まれ、十年ぶりの研究発表会を開催することができました。市内外から教育関係者約四百人が参観し、子どもたちは緊張感の漂う中で、自分の考えを堂々と話すことができました。話すことより、相手の考えを受け止めて、きちんと聞くことも一年生から大切にしています。



「ぼくたちの授業を見にきてください。」と参観者に授業の紹介をしました。



「いっぱい先生がきてすごいきんちょうしたんだけど、ちょっと早めに意見が言えたのでよかったです。(R君)」



地域の方々・交通指導員さんのご協力
中学校の運動場にも百三十台余りを駐車させていただきました。小学校には二百台余り駐車、交通指導員さんには、帰りの交通整理までしていただきました。
ありがとうございました。



PTA役員・委員さんのご協力
多くの来賓・一般参観者の受付や案内を大変手際よくしていただきました。表示板を持って道案内に立っていただいた方もありました。このような研究会は、学校職員だけではできません。ブロックの教頭先生やPTA役員・委員さんにお手伝いをしていただき、無事に終えることができました。
ご参観者は四百十一人でした。
ご協力の心より感謝申し上げます。

明るく未来をひらく六ツ美中部の子の育成

—環境学習を基盤にしたESDの推進—

研究主任
杉田裕一先生
研究副主任
西脇ゆうみ先生
研究副主任
鈴木広樹先生

教育長はじめ多くの来賓の皆様



六ツ美の未来について真剣に話し合う



「授業者と語る会」



廊下にあふれる人



校長挨拶

今日、地球環境を脅かす異常気象が、世界各国で報道されています。ワルシャワで開かれたCOP（コップ）19で、フィリピン政府代表が涙ながらに訴えたことは、地球温暖化を防止するために「温室効果ガスの削減」をどのようにしていくかを、一人一人が考え、ライフスタイルを見直さなければならぬのだと、受け止めました。

まさに、今、環境学習の充実が求められています。この六ツ美中部学区は、四季折々の風景を楽しむことができ、水と土と里山みどりを大切にしている地域です。かつては、羽角山の頂上に登ると「六ツ美は、菜の花がまるで黄金に輝く、海原のようだった。その中に小学校が、ぽっかりと浮かんだよ」と、地元の方から聞きました。

その自然の豊かさが、六ツ美の地の人々の人情を育んできたのです。校歌にも「菜の花のさきさきて 悠紀のほまれのゆかしきところ」と歌われています。中部小学区は、自然も、人も、温かく、包み込んでくれる「優しい心が、あふれたところ」です。

本校は、今年創立百四十周年を迎え、地域の方々が学校を大切に思い、支えてくださり、そんな中で、教育のできることを、日々幸せに感じています。ところで、ESDとは、特別に何か、新しいことを始めることでは、ありません。今まで行われてきた、学校の取り組みを大切にすることであり、授業や様々な行事の質を高めることだと考えています。本校では「持続可能な社会づくりに向けた、人づくりにつながる全ての教育活動」を、ESDであると考えて、「ESDプロジェクトの推進」に、取り組んで参りました。

研究の成果と課題は、全学級の授業を見て、「授業者と語る会」で、忌憚のないご意見やご指導をいただければ幸いです。

本日まで、ご指導をいただきました岡崎市教育委員会の先生方、教科・領域指導員をはじめ、多くの先生方や地域講師の方々には、心より感謝を申し上げます。

